



## キャリア教育で感じた言葉を伝えることの大切さ

－若者たちが「心」を言葉で伝えるために必要なこと－

天理大学非常勤講師・キャリア研究会事務局長

島津 和代



島津和代氏 プロフィール

厚生労働省・文部科学省・内閣府の対策や推進事業で小学生、中学生、高校生、大学生や若者のキャリア教育に携わってきた。現在は、日本体育大学、天理大学、東邦大学などの大学におけるキャリア教育に取り組んでいる。日本キャリア教育学会会員で、キャリア研究会の事務局長としてキャリア教育の推進に精力的に取り組んでいる。


私は、子どもたちや若者と一緒になって、世の中が丸くつながっていく「キャリア教育」をすすめていきたいと考えている大人の一人です。日頃は主に大学生のキャリア教育に携わりながら、小中学生や高校生、世の中で人と関わっていくことに困難を感じている若者たちと、様々な場面で面談をしてきました。思いや願いが相手の心にありありと伝わった時の感覚を楽しむことは、大変貴重です。それが本人にとって、心を育む大きな弾みになっていることを何度も目の当たりにしてきました。同時に、キャリア教育に関わる私たちが、子どもや若者と一緒になって十分に話し合いを楽しむことも重要です。

その中で感じた、「心」を言葉で伝えるために必要なことを、三つの観点からお話したいと思います。第一に【ゆっくり、じっくりと考えること】の大切さ。第二に【伝えたい心を育む】こと大切さ、第三に【相手に心が伝わるようになるスキル】を身に付けること大切さ。

### 【ゆっくり、じっくりと考えること】の大切さ

一つ目の【ゆっくり、じっくりと考えること】の大切さとは、何よりもまず、「最初に自分の考えを持つことから始まる。」ことを知ってもらうことと良いでしょう。生徒や学生に何かを尋ねた時に、「えっ…。なんとなく、です。」と返事がかえてくるのがしばしばあります。しかし、なんとなくでも、しづしづでも、「何かをしていること」には、自己決定があったからなのです。その時のモチベーションや心の躍動感がどうだったのかによって、活動の質や、自分のこととしてとらえる感触が異なってきます。

どうしてそのことをしてきたのか、しているのか、したいと思っているのかを、時にはゆっくり、じっくりと考えてみましょう。自分の言動に新たな価値を見出し、未来の自分を育てる種まきをしていくようなものだと思います。

次ページへ続く 

## 【伝えたい心を育む】ことの大切さ

二つ目の【伝えたい心を育むこと】の大切さは、今日、とても必要とされていると感じています。日常生活の中でお互いに伝えつつも、知ったつもりになってしまい、後になって大きな思い違いであったことに気づくことがあります。相手への気遣いや奥ゆかしさはこの国に住む人々の美德とされていますが、一方では、お互いの思いを伝え合うことが少なくなる原因にもなっているのではないのでしょうか。

一人ひとり、立場も抱えている課題も環境も違います。話してみないとわからないことばかり。そうした心の動きを直接伝えることが難しい場合は、気持ちを手紙やメモを残しておくことも有効です。後になって、その時にはわからなかった自分の成長や気づきになることもしばしばあります。「このようなことを感じて伝えなかった」、「あの時は、こう思ったけれど、自分で解決できた」など、時間が経過したからこそ、違う角度からの会話につながるかもしれません。様々な立場から、実際の思いを伝え合うことで、他者の発想を楽しんだり、体験談や希望を語り合うことは、生き生きとした自分の生き方を創ったり、組み換えたりするきっかけになり、心の畑を耕していくことになります。

## 【相手に心が伝わるようにするスキル】を身に付けることの大切さ

三つめの【相手に心が伝わるようにするスキル】を自ら身に付けることの大切さについては、言葉の力だけでなく、周りの大人たちの振る舞いや、希望を持って生きているかどうかのポイントになっています。「社会へ出ることは大変」と感じる若者が多くなっているといわれていますが、その背景には、大人たちが、実際に手本となるような行動をしておらず、明日への希望が持てるように歩んでいないからかもしれません。今を生きる若者は、今の大人たちが若かったころよりも大きな課題の中に生きています。

情報化社会の今、どんなに頑張ろうと思っても何の道具も手にしないで、社会人として土を耕すのは大変です。そのようなときに、手に一本の鋤を持たせてくれるのが「日本語の力」ではないのでしょうか。言葉で適切に心を伝えることについて、私は、恩師から次の言葉を授けていただきました。

「島津さん。世の中には一瞬のうちにトンネルほどの穴をあける機械があるんだよ。でも、もしも自分の手に鋤しかないのであれば、その鋤で一生懸命自分の畑を耕しなさい。」

例えば「日本語検定」は、間違っていない表現より、その場や状況にもっとフィットした表現を手にするチャンスを広げてくれます。より自分の心に近い表現力を探し出していく作業は、大変なことですが、そんな時は「日本語検定」の扉を開いてみてください。さりげなく、優しく、豊かな日本語に触れながら、自分の力で成長することができます。そして、自分の成長を楽しむためにも、その成長を確かめるために「日本語検定」を受けてみることもお勧めします。社会人になっていく道すがら、予期せぬ場面で自分の意見を伝える場面がどんどん増えていきます。そんな時に、自分の手にした一本の鋤「心を表現するツール」を見つめてください。

今あなたの手にはどのような鋤がありますか。新品のぴかぴかなものですか。使い慣れてしっくりとする持ち手でしょうか。そろそろ、もっとよく耕せる次の鋤を手にしたいたいですか。自分を見つめて未来を見据えて、必要なスキルを身に付けませんか…と、うながすことが、若者にとって大きなヒントになるのです。